

# 民主化闘争情報

No. 904  
2014年4月1日  
発行 日本鉄道労働組合連合会  
(JR連合)

3月31日、JR総連傘下の日本貨物鉄道労働組合（略称：日貨労）で、  
またもや「ヤミ専従」問題が発覚した。厳しい経営環境下、コスト削減に  
相反する日貨労の不正行為を見逃してきたJR貨物会社の責任は重大だ。

## 日貨労で「ヤミ専従」問題が発覚！

「ヤミ専従」とは、非専従の組合役員が、勤務時間中に正規の手続きをとらずに、  
職場で勤務しているように装いながら給与を受給しつつ、実際は職場を離れて組合活  
動に専念するものだ。

貨物鉄産労によれば、某機関区所属の日貨労本部非専従役員は、ある月の勤務実態  
は4日のみ、休日を除く他のすべての日が「経営協議会」として勤務認証され、その  
多くが実態のないものだという。また、当役員以外にも「ヤミ専従」役員が複数存在  
するという。

JR連合は、今日まで、JR貨物の厳しい経営環境を踏まえ、JR貨物に働く仲間  
の労働条件の維持・向上のために、各種税制優遇措置の延長や新設、東日本大震災に  
よる被災に対する公的助成、そして鉄道・運輸機構特例業務勘定の利益剰余金を活用  
した追加支援策などを求め、勝ち取ってきた。さらには、現在「三島・貨物経営安定  
化プロジェクト」及び「鉄道貨物モダルシフトプロジェクト」を立ち上げ、JR貨  
物の経営安定そして鉄道貨物ネットワーク構築にむけた政策提言を進めている。

JR貨物はこうした支援策等を受けつつ、支援の前提として国に示した「経営自立  
計画」達成にむけ、ボーナスカット等による人件費削減をはじめとするコスト削減や  
人員抑制を進めており、JR貨物に働く仲間は、この難局を乗り越えるべく、歯を食  
いしばって、業務に従事している。こうした中で、最大労組である日貨労とJR貨物  
会社が癒着し、働かずして給与を霞み取る「ヤミ専従」が横行していることは、まじ  
めに働く社員に対する「背信行為」に他ならない。

## 日貨労の「言いなり」で繰り返される「不正行為」！

日貨労の「ヤミ専従」問題は2004年にも発覚している。不正行為を告発した貨物鉄  
産労に対して、会社は「是正する」と約束していたにもかかわらず、不正行為は繰り  
返されたのだ。年休の取得すら厳しい人員体制の中、日貨労そして会社は社員、組合  
員にこの不正行為をどう説明するのか。そして、社員、組合員にコンプライアンス遵  
守を求める一方で、今回のコンプライアンス違反をどう説明するのか。

JR連合は、革マル派浸透が危惧される日貨労との癒着関係を脱し、真に働く者に  
資する労使関係の構築なくして、JR貨物の再生、経営自立はもはや不可能だと考える。

今回発覚した「不正行為」は氷山の一角であり、JR貨物会社はその全容を明らか  
にすべきである。

私たちJR連合は、JR貨物会社の猛省と「労政転換」の英断を強く求める。

**JR貨物会社は労政転換の英断を！**

**良識ある日貨労組合員の皆さん、勇気ある行動を！**